

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究 (A)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18203028
 研究課題名（和文） 病気・障害・ストレスへの積極的対処と人生再構築に焦点化した健康社会学的研究
 研究課題名（英文） Health Sociological studies on positive coping and life reconstruction of people living with illness and disability and/ in the face of life stressors.
 研究代表者
 山崎 喜比古 (YAMAZAKI YOSHIHIKO)
 東京大学・大学院医学系研究科・准教授
 研究者番号：10174666

研究成果の概要：

病・障害・ストレスと生きる人々において、様々な苦痛や困難がもたらされている現実とともに、よりよく生きようと苦痛・困難に日々対処し、生活・人生の再構築に努める懸命な営みがあることに着目し、様々な病気・障害・ストレスと生きることを余儀なくされた人々を対象に実証研究と理論研究を行い、その成果は、英文原著 17 件を含む研究論文 26 件、国内外での学会発表 60 件、書籍 2 件に纏めて発表してきた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	15,100,000	4,530,000	19,630,000
2007 年度	9,100,000	2,730,000	11,830,000
2008 年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
年度			
年度			
総計	28,100,000	8,430,000	36,530,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード： ライフ(生存・生活・人生)、健康・病気・障害、スティグマ・まなざし、積極的対処
 人生再構築、ストレス関連成長、ストレス対処能力 SOC

1. 研究開始当初の背景

病気や障害や、それらに由来する様々な困難・苦痛・ストレスを抱えながら、よりよく生きようと懸命に努力している人々は今日遍く存在する。にもかかわらず、これまで、医学はもちろん、医療社会学も苦痛や困難、それが人間存在の全次元に及ぶ過程（例えば、貧困と病気の悪循環）に着目し、そうした苦痛や困難緩和・軽減・除去を志向する傾向が強く、苦痛や困難に積極的に対処し病気や障害のある人生を再構築していく過程の研究と、その過程を支援する観点からの取り組み

は極めて立ち遅れてきた。

2. 研究の目的

本研究は、病気や障害、ストレスフルな状況に由来する様々な苦痛や困難に対処し、健康およびQOLの維持・回復とライフの再構築を図っていく過程、ならびに、その成否を左右する対処能力や対処資源、支援環境について実証的包括的に把握解明することを目的とした。より具体的には、薬害HIV感染患者と被害者遺族、関節リウマチ患者、口蓋口唇裂患者、ALS(筋側索硬化症)患者など、病状のほかスティグマなど

も強烈で、苦痛と困難が人間存在の全次元(生存・生活・人生)に及ぶような病気を抱えた人々の<生きる営み>を中心に、その実証的理論的解明を図ろうとするものであった。また、理論的には、積極的対処(positive coping)や人生再構築(life reinstatement)の理論化とともに、ストレス対処・健康保持能力SOC(sense of coherence)、ストレス関連成長(stress-related growth)、ベネフィットファインディング(benefit-finding)、ホープ概念などの深化をめざした。

3. 研究の方法

研究対象は、むしろ、様々な病気・障害を抱えた人々や様々なストレスに曝された人々にすることにより、病気・障害・ストレスの種類を超えた人々の積極的対処と人生再構築、その要因に関する理論化、一般化に役立てた。

調査の計画・準備から始めデータの収集・分析を経て研究発表に至っている研究が最も多く、多くの調査研究で質的研究と量的研究を併用した。一部の研究では2次分析結果を纏めた。

4. 研究成果

初年度には、すでに得られている調査データの分析または2次分析を行うとともに、新たに幾つかの調査を実施した。

調査データの分析・2次分析は、薬害HIV感染被害者生存患者のライフとその再構築に関わる要因、薬害HIV感染患者の最近7年間における健康・生活面の変化とその要因、

侵襲的人工呼吸器を装着した在宅ALS(筋側索硬化症)患者における苦痛・困難とそれへの対処並びにホープとの関連、一般住民におけるホープとその関連要因、関節リウマチを持つ日米男女におけるベネフィットファインディング、メンタルヘルスと社会関係、セルフケアとの関連、主観的健康管理能力(PHCS)と社会経済的地位との関連性、口唇口蓋裂患者におけるライフの肯定に至るプロセスとその要因、新卒新入社員メンタルヘルスに就職前準備因子と社内サポートネットワークが及ぼす影響、ストレス・危機対処能力SOCとその関連要因の都鄙間比較、東大健康社会学版SOC3項目尺度の開発、について行った。

新たな調査は、SOCと従来型心理社会的健康資源間の関連並びにその都鄙間比較、

子どものSOC(CSOC)とその関連要因の日中台間比較、クリニックラウン(臨床道化師)が入院がん患児の心理社会面に与える影響、

難病をもつ人々を対象とした新しい就労支援プログラムのプロセス・アウトカム評価、

日本人における精神障害(者)へのスティグマと「まなざし」の構造、乳がんマンモグラフィ検診への参加意図と選好、看護師

が患者との対人関係において困難を感じる事態とその対処方略、民間航空機客室乗務員の救命経験と教育及びサポートニーズ、海外勤務後の離・転職者のライフ及びジョブストレスマネジメントと人生再構築、について行った。

第2年度には、以下のような実証研究と理論研究を行った。

実証研究は、薬害HIV被害者生存患者とその家族の困難と対処と人生再構築、薬害HIV感染患者におけるSOCがその後のQOL等に及ぼす影響、職業をもつIBD患者の困難と職業生活適応過程、関節リウマチをもつ人々の困難および対処と人生再構築ならびにその関連要因、口唇口蓋裂患者の社会関係の発達と家族との相互作用、慢性疾患セルフマネジメントプログラムが患者の病気への積極的対処と人生再構築を促進する過程、精神障害者への日本社会の態度とスティグマ、中壮年期の男女労働者におけるワークライフバランスの規定要因と疲労・ストレスへの影響、SOCと従来型心理社会的対処資源との関係、クリニックラウンが入院がん患児の心理社会面に与える影響、難病をもつ人々における就業支援とキャリア再構築のプロセス、乳がんマンモグラフィ検診への参加意図と選好、といったテーマでそれぞれ調査・分析・論文化が進められた。

理論研究は、健康生成論とSOC研究のレビュー、健康生成モデルと社会モデルに基づく新しいストレス研究の創成、「健康への力」に関する理論開発、の各々をテーマにした研究会が定期的にもたれる形で進められ、健康生成論とストレス対処能力概念SOC、及びSOCの類似概念、ストレス関連成長概念などが深められた。

最終年度は、論文として纏め発表していくことに力点が置かれた。

病気・障害がもたらす苦痛や困難とともに、それらへの積極的対処と人生再構築に光を当てた研究では、薬害HIV被害者生存患者とその家族の20年間、職業をもつIBD患者の困難と職業生活適応過程、関節リウマチをもつ人々における困難と対処ならびにその関連要因、心身に障害を抱えるホームレスの人たちのサポートネットワークと健康関連行動、口唇口蓋裂患者における<生>の肯定が得られていく過程をまとめた研究は、英文誌に投稿された。

ストレス対処に関するテーマでの研究では、精神障害者への日本社会の態度とスティグマ、「障害者への社会のまなざし」を偏見・差別以外の角度からも明らかにした研究、中壮年期の男女労働者と看護師のそれぞれを対象とするワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因と疲労・ストレスへ

の影響に関する研究とも、両立支援文化や職場風土の重要性を明らかにしてくれたが、いずれも英文または和文原著論文として掲載もしくは投稿された。

ストレス対処・健康保持能力概念SOCに関しては、慢性疾患セルフマネジメントプログラムの受講患者数百人に対する1年に及ぶ追跡研究、高校生の「生きる力」に繋がる生活探しと題する縦断調査研究、薬害HIV感染生存患者におけるSOCがその7年後のQOL等に及ぼす影響に関する追跡研究、全国一般住民サンプルを用いた生活ストレスの進行過程におけるSOCの効果に関する分析・検討などが行われ、その成果は学会に発表された。

以上を通して、本研究では、病気や障害、ストレスフルな状況に由来する様々な苦痛や困難に対処し、健康およびQOLの維持・回復とライフの再構築を図っていく過程、ならびに、その成否を左右する対処能力や対処資源、支援環境について実証的理論的な把握解明が進められ、図られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計26件)

1) Mayumi Sakita, Yoshihiko Yamazaki, Togari Taisuke, Mizota Yuri, Social relationships and their effects on anxiety, depression, and hope in people with rheumatoid arthritis in Japan Japanese Journal of Health & Human Ecology 査読有、75(1)、2009、3-17.

2) 山崎喜比古

ストレス対処能力概念SOCの保健医療社会学的含養とチャレンジ、保健医療社会学論集、査読有、19(2)、2008、43-55.

3) Royko Ebina, Yoshihiko Yamazaki

Sense of coherence and coping in adolescents directly affected by the 1991-5 war in Croatia Promotion and Education、査読有、15(4)、2008、5-10.

4) Michiyo Ito, Taisuke Togari, Min Jeong Park, Yoshihiko Yamazaki

Difficulties at work experienced by patients with inflammatory bowel disease (IBD) and factors relevant to work motivation and depression Japanese Journal of Health & Human Ecology、査読有、74(6)、2008、290-310.

5) 望月美栄子、山崎喜比古、菊澤佐江子、

的場智子、八巻知香子、杉山克己、坂野純子

こころの病をもつ人々への地域住民のスティグマおよび社会的態度 - 全国サンプルから厚生学の指標、査読有、55(15)、2008、6-15

6) 山崎喜比古

HIV 感染血友病患者の病ある人生の再構築と支援、日本エイズ学会誌、査読有、10(3)、2008、144-155

7) 八巻知香子、山崎喜比古

「障害者への社会のまなざし」 - その内容と特徴、保健医療社会学論集、査読有、19(1)、2008、13-25.

8) Ayako Ide(Okochi), Yoshihiko Yamazaki

Social support networks and health-oriented behaviors among skid row residents with disabilities utilizing social rehabilitation services in Kotobuki, Japan Japanese Journal of Health & Human Ecology 査読有、74(5)、2008、250-266

9) Ryoko Taguchi, Yoshihiko Yamazaki, Tomoko Takayama, Mitsue Saito,

Life-Lines of relapsed breast cancer patients: A study of post-recurrence distress and coping strategies Japanese Journal of Health & Human Ecology、査読有、74(5)、2008、217-235

10) Taisuke Togari, Yoshihiko Yamazaki, Kazuhiro Nakayama et al. (他2名、2,3 番目)

Follow-up Study on the Effects of Sense of Coherence on Well-being after Two Years in Japanese University Undergraduate Students Personality and Individual Difference、査読有、44、2008、1335-1347

11) 磯野富美子、鈴木みゆき、山崎喜比古

保育所で働く保育士のワークモチベーションおよびメンタルヘルスとそれらの関連要因。小児保健研究。査読有、67(2)、2008 367-374

12) Taisuke Togari, Yoshihiko Yamazaki, Kazuhiro Nakayama et al. (他2名、2,3 番目)

Construct validity of Antonovsky's sense of coherence scale: Stability of factor structure and predictive validity with regard to the well-being of Japanese undergraduate students from two-year follow-up data. Jpn J Health & Human Ecology 査読有、74(2)、2008、71-86.

13) Miho Sato, Yoshihiko Yamazaki, Mayumi Sakita, Thomas J. Bryce.

Benefit-finding among people with rheumatoid

arthritis in Japan, *Nursing & Health Sciences*, 査読有 10(1), 2008, 51-58

14) Kazumi Fujimura, Tohru Yoshida, Takeshi Yamamoto, Yoshihiko Yamazaki, Prevalence of domestic violence against women and its risk factors in Gunma, Japan. *Japanese Journal of Health and Human Ecology*. 査読有 73(6) 2007, 225-241.

15) Kawai, K., Yamazaki, Y., Nakayama, K. Development and formative evaluation of a Web-based stress management program to promote Psychological Well-being, *Japanese Journal of Health and Human Ecology*, 査読有 73(4), 2007. 137-152.

16) Tsuno YS, Yamazaki Y.: A comparative study of Sense of Coherence (SOC) and related psychosocial factors among urban versus rural residents in Japan. *Personality and Individual Differences*, 査読有 43 2007,449-461

17) Taisuke Togari, Kazuhiro Nakayama, Junichi Shimizu, Yoshihiko Yamazaki, Development of a short version of the Sense of Coherence Scale (SOC3-UTHS) for population survey. *Journal of Epidemiology and Community Health*, 査読有 61, 2007, 921-922,

18) Hirano Y, Sakita M, Yamazaki Y., Kawai K Sato M, The Herth Hope Index (HHI) and related factors in the Japanese general urban population. *Jpn. J. Health Hum. Ecol.* 査読有,73(1),2007 31-42,

19)Yuri MIZOTA, Megumi OZAWA, Yoshihiko YAMAZAKI, Daily difficulty and Desire of the bereaved: A study of bereaved families of HIV-infected Hemophiliacs in Japan. *Bulletin of Social Medicine*,査読有 24 2006, 43-56.

20) Kawai K, Yamazaki Y. The effects of pre-entry career maturity and support networks in workplace on newcomers' mental health., *Journal of Occupational Health* 査読有, 48(6), 2006,

21) Mizota Y, Ozawa M Yamazaki Y., Inoue Y. Psychosocial problems of bereaved families of HIV-infected hemophiliacs in Japan. *Social Science & Medicine*. 査読有 62(10): 2397-2410, 2006

22) 山崎喜比古:「健康に生きる力」と健康生成力 SOC を考える、*体育科教育* 査読無, 54(8) 2006, 36-39

23) Yuko Mandai Hirano, Yoshihiko Yamazaki, Junichi Shimizu, Taisuke Togari , Thomas James Bryce, Ventilator dependence and expressions of need: A study of patients with amyotrophic lateral sclerosis in Japan, *Social Science & Medicine* 査読有, 62, 2006,1403-1413.

24) 河合薫, 山崎喜比古: 新卒社会人の社内サポートネットワーク構造がメンタルヘルスに及ぼす影響について、*日本健康教育学会誌*, 査読有, 14(2) 2006, 71-81.

25) 戸ヶ里泰典, 山崎喜比古, 小出昭太郎, 宮田あや子: 修正版 Perceived Health Competence Scale(PHCS)日本語版と社会経済的地位との関連性の検討、*日本健康教育学会誌*, 査読有 14(2) 2006, 82-96,

〔学会発表〕(計 68 件)

1) 大村佳代子, 伊藤美樹子, 山崎喜比古, 井上洋士, 溝田友里 他, 薬害 HIV 感染被害者家族の支援ニーズの検討～母親の思いから～、第 22 回日本エイズ学会学術集会、2008 年 11 月 27 日、大阪・大阪国際交流センター

2)九津見雅美, 伊藤美樹子, 山崎喜比古, 井上洋士, 溝田友里 他, 薬害 HIV 感染被害患者とその妻への告知の状況、第 22 回日本エイズ学会学術集会、2008 年 11 月 27 日、大阪・大阪国際交流センター

3)横山由香里, 山崎喜比古, 井上洋士, 伊藤美樹子 他, 薬害 HIV・HCV 重複感染長期生存患者における QOL の変化とその要因、第 67 回日本公衆衛生学会総会、2008 年 11 月 7 日、福岡・福岡国際会議場

4) 熊谷たまき, 関島香代子, 伊藤美樹子, 山崎喜比古, 點頭てんかん児の学校選択と病状・障害との関連、第 67 回日本公衆衛生学会総会、2008 年 11 月 6 日、福岡・福岡国際会議場

5)大宮朋子, 山崎喜比古, 口唇口蓋裂(CLCP)を生きるということ～ライフヒストリーの聞き取りおよび質問紙調査から～、第 73 回日本民族衛生学会総会、2008 年 10 月 27 日、神奈川・パシフィコ横浜・会議センター

6) 木村美也子, 大宮朋子, 山崎喜比古, 広汎性発達障害児の母親の次子妊娠・出産への「思い」と「選択」～第 1 報～、第 73 回日本民族衛生学会総会、2008 年 10 月 26 日、神奈川・パシフィコ横浜・会議センター

7)横山由香里, 山崎喜比古, 井上洋士, 清水

由香、伊藤美樹子 他、薬害 HIV 感染長期生存血友病患者における事件発生から 10 数年を経た 1998 年から 2005 年までの健康・心理・生活面の変化とその要因、第 34 回日本保健医療社会学会大会、2008 年 5 月 18 日、東京・首都大学東京大沢キャンパス

8) 清水由香、井上洋士、溝田友里、山崎喜比古、関由起子、若林チヒロ、八巻知香子、伊藤美樹子他、薬害 HIV 感染患者の生存患者の母親・父親が経験した生活の影響と支援ニーズ 2005 年の全国調査から、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会、2007.11.30. 広島・広島国際会議場

9) 山崎喜比古、井上洋士、溝田友里、清水由香、伊藤美樹子、関由起子、若林チヒロ、戸ヶ里泰典、横山由香里、薬害 HIV 感染患者の追跡的研究：(第 1 報)健康と生活面の変化の様相と主観的健康変化の要因(第 2 報)ストレス対処能力 SOC の関連要因および効果、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会、2007.11.30. 広島・広島国際会議場

10) 九津見雅美、溝田友里、山崎喜比古、伊藤美樹子、井上洋士、清水由香 他、薬害 HIV 感染患者とその妻の挙子の現状と挙子意向、第 66 回日本公衆衛生学会総会、2007.10.25. 松山・県民文化会館

11) 溝田友里、九津見雅美、山崎喜比古、伊藤美樹子、井上洋士、清水由香、若林チヒロ、濱松深子、望月美栄子 他、薬害 HIV 感染が血友病患者のその後の人生の発達課題達成に及ぼした影響、第 66 回日本公衆衛生学会総会、2007.10.25 松山・県民文化会館。

12) 佐藤みほ、山崎喜比古、石川ひろの、楠永敏恵、松本佳子、久野由美子：地域住民をスタッフとする「共助型」介護予防プログラムの有効性に関する検討、第 66 回日本公衆衛生学会総会、2007.10.26、松山・県民文化会館。

13) 戸ヶ里泰典、山崎喜比古、中山和弘、清水準一：東大健康社会学版 SOC3 項目スケール (SOC3-UTHS) 修正版の信頼性と妥当性の検討、第 66 回日本公衆衛生学会総会、2007.10.26、松山・県民文化会館。

14) 望月美栄子、山崎喜比古、的場智子、菊澤佐江子、坂野純子、杉山克己、八巻知香子：こころの病をもつ人々への「まなざし」及びスティグマに関する研究-全国サンプル調査の結果から、日本福祉学会第 55 回全国大会、2007.9.23. 大阪・大阪市立大学

15) 田邊ますみ、花田(久野)由美子、山崎喜比

古、河合薫、佐藤みほ、他：クリニックラウン(臨床道化師)が入院中の子どもに与える影響の検討 - 第 1 報調査の概要、第 54 回日本小児保健学会、2007.9.22. 前橋・群馬県民会館。

16) 溝田友里、井上洋士、山崎喜比古 他、薬害 HIV 感染患者および家族の「薬害」の認識、第 48 回日本社会医学学会総会、2007.7.22、名古屋・名古屋大学。

17) 義平真心、山崎喜比古、花田照久：東京上野周辺在路上生活者の実態調査と支援のあり方の考察、第 48 回日本社会医学学会総会、2007.7.21 名古屋・名古屋大学

18) 望月美栄子、山崎喜比古、八巻知香子、楠永敏恵：要介護高齢者にとって車いすを利用することは何を意味するのか - 高齢車いす利用者への聞き取りから、第 33 回日本保健医療社会学会大会、2007.5.19、新潟・新潟医療福祉大学

19) 田口良子、山崎喜比古、瀬戸山陽子、伊藤美千代：一般住民の乳がんマンモグラフィ検診参加意図の関連要因の選好に関する調査：選択型実験を用いて、第 33 回日本保健医療社会学会大会、2007.5.19、新潟・新潟医療福祉大学。

20) 星野周也、山崎喜比古、溝田友里、住川陽子、戸ヶ里泰典、伊藤美千代、田口良子、九津美雅美：在宅介護と施設介護の選択の関連要因に関する研究、第 33 回日本保健医療社会学会大会、2007.5.20 新潟・新潟医療福祉大学。

21) 山崎喜比古、関由起子、戸ヶ里泰典、横山由香里、溝田友里、井上洋士、伊藤美樹子、清水由香、若林チヒロ、八巻知香子、楠永敏恵、的場智子：薬害 HIV 感染患者の 7 年間の追跡研究に見る健康生成力 SOC - SOC は何により変動し何を予測していたか？ -、第 33 回日本保健医療社会学会大会、2007.5.19、新潟・新潟医療福祉大学。

22) 戸ヶ里泰典、坂野純子、山崎喜比古、児童・思春期の SOC と、心理社会的学校・家庭環境との関連性の検討 - 第 53 回日本学校保健学会、2006、11.11、香川・サンポートホール高松

23) Y.M.Hirano, Y.Yamazaki, J.Shimizu, Difficulties, Psychological Support, and Relationship with Hope in Invasive Mechanical Ventilator-Dependent ALS Patients in Japan, 17th International Symposium on ALS/MND, Yokohama, Japan, November 2006.

24) 山崎喜比古、溝田友里、井上洋士、若林チヒロ、関由起子、的場智子、楠永敏恵、他：薬害

HIV 感染生存患者・家族の<生>とニーズに関する調査研究 - 第 2 報:患者の<生>に関する諸概念と質問紙調査の結果 -、第 79 回日本社会学会、2006.10.29.京都・立命館大学

25) 大宮朋子、山崎喜比古:口唇口蓋裂という生(Life)の肯定」について、第 79 回日本社会学会、2006.10.28.京都・立命館大学

26) 姥名玲子、久野由美子、山崎喜比古:クニクラウンががん患児に与える影響の把握、第 65 回日本公衆衛生学会、2006.10.25、富山・富山県民会館

27) 戸ヶ里泰典、山崎喜比古:ストレスコーピング方略との関連に見る健康生成力 SOC の特徴の検討、第 65 回日本公衆衛生学会、2006.10.26、富山・富山県民会館

28) 溝田友里、山崎喜比古、関由起子、楠永敏恵、他:薬害 HIV 感染被害者の生存患者とその家族への質問紙調査 - 第 1 報:患者の恋愛・結婚・性、および拳子に関して - 第 2 報:患者と家族へのスティグマに関して、第 47 回日本社会医学学会、2006.7.22、徳島・県立青少年センター

29) 楠永敏恵、山崎喜比古:在宅要介護高齢者の生きる支えについて、第 47 回日本社会医学学会、2006.7.22、徳島・県立青少年センター

30) 松本佳子、山崎喜比古、石川ひろの、柳在貞、住川陽子、伊藤美千代、田口良子他:介護予防を目的とする3タイプの集団運動プログラムが及ぼす効果の検討、第1報:主観的 QOL への効果を中心に、第2報:参加に対する perception を中心に、第 15 回日本健康教育学会、2006.6.24、東京・東京大学

31) 久野由美子、嶋名玲子、山崎喜比古:クニクラウンが入院患児に与える影響の把握、第 15 回日本健康教育学会、2006.6.24、東京・東京大学

32) 伊藤美千代、山崎喜比古、崎田マユミ、阿部桜子:職業をもつ炎症性腸疾患(IBD)患者における職場での困難の実態、第 32 回日本保健医療社会学会大会、2006.5.14、東京・立教大学

33) 松本佳子、山崎喜比古、楠永敏恵、石川ひろの:新しい評価手法による介護予防プログラムの効果把握の試み、第 32 回日本保健医療社会学会大会、2006.5.14、東京・立教大学

34) Yuri Mizota, Yoshihiko Yamazaki, Yoji Inoue, Yuka Shimizu, Mikiko Ito. HIV-infected hemophiliacs and their families at 20 years post infection in Japan. the 27th International

Congress of the World Hemophilia Congress, 2006, May. Vancouver, Canada,

(図書)(計 2 件)

1) 山崎喜比古、戸ヶ里泰典、坂野純子編、有信堂、ストレス対処能力 SOC、2008、1-228

2) 山崎喜比古、井上洋士編、東京大学出版会、薬害 HIV 感染被害者遺族の人生～当事者参加型リサーチから～、2008、1 - 277

6 . 研究組織

(1)研究代表者

山崎 喜比古 (YAMAZAKI YOSHIHIKO)
東京大学・大学院医学系研究科・准教授
研究者番号: 10174666

(2)研究分担者

井上 洋士 (INOUE YOJI)
放送大学・教養学部・准教授
研究者番号: 60375623
(平成 18 年度のみ)

(3)連携研究者

(平成 18・19 年度は分担研究者)

江川 緑 (EGAWA MIDORI)
東京工業大学・留学生センター・准教授
研究者番号: 40251615

小澤 温 (OZAWA OTSUSHI)
東京大学・ライフデザイン学部・教授
研究者番号: 00211821

中川 薫 (NAKAGAWA KAORU)
首都大学東京・都市教養学部・准教授
研究者番号: 00305426

中山 和弘 (NAKAYAMA KAZUHIRO)
聖路加看護大学・看護学部・教授
研究者番号: 50222170

坂野 純子 (SAKABNO JYUNKO)
岡山県立大学・保健福祉学部・准教授
研究者番号: 70321677

清水 由香 (SHIMUZU YUKA)
大阪市立大学・大学院生活科学研究科・助教
研究者番号: 90363788

楠永 敏恵 (KUSUNAGA TOSHIE)
聖徳大学・短期大学部・講師
研究者番号: 90363788

伊藤 美樹子 (ITO MIKIKO)
大阪大学・大学院医学系研究科・准教授
研究者番号: 80294099

清水 準一 (SHIMIZU JYUNICHI)
首都大学東京・健康福祉学部・准教授
研究者番号: 40381462

石川 ひろの (ISHIKAWA HIRONO)
滋賀医科大学・医学部・准教授
研究者番号: 40384846